

議案 39 号「安全性が確認できるまで未成年者への新型コロナウイルスワクチン接種の中止を求める意見書」について、生活者ネットワークとして賛成の立場で討論いたします。

昨今の新型コロナウイルスの感染拡大の状況のなかで、国は事態の収束をはかる切り札としてワクチン接種を強力に推し進め、6 月からは 12 歳～15 歳を含めた若い世代への接種も進んでおり、さらに低年齢への接種に向けた動きも始まっています。

9 月 10 日に開催された第 68 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会で発表された資料によれば、ワクチン接種後の死亡者数は 1,155 人、死亡者を含む重篤者は 4,210 名、副反応報告者数は 23,456 名です。

ワクチン接種との因果関係は認められないとしつつも、重篤な副反応報告事例として 10 代が 22 件、20 代が 348 件となっており、10 代 1 名、20 代 9 名、30 代 4 名の死亡事例の報告もあがっています。

一方で、厚生労働省の発表（「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（速報値）」令和 3 年 9 月 22 日）によれば新型コロナウイルス感染症による年代別死亡者数は、全体の 14,462 人のうち 60 代以上が全年齢の 9 割以上の約 92%を占めており、30 代、20 代、10 代未満の死亡率は 0.0%です。また重症者数についても全体の 600 人のうち 30 代が 4 人、20 代・10 代以下はいずれも 0 人で、30 代以下の全体に占める割合としては 0.0%と、感染が急拡大したといわれる 8 月後半を含む統計のなかでも非常に低い傾向にあります。

新型コロナワクチンの臨床試験も終わらないなかで長期的な影響やリスクが明らかになる前に、あるいは副反応に苦しむ方や死亡との関連が疑われるケースが時を経るごとに積み上がっている現状があるにもかかわらず、それに正面から向き合い報道・周知することや、不安を解消するに足る情報が出されることもないままに、大規模に接種することのみを推し進めることに対しては非常に憤りを覚えます。またワクチン接種を不安に思ったり、心配する声を「反ワクチン派」場合によっては「デマ」「陰謀論者」と切り捨てる、こうした事態に危惧しております。

委員会審査のなかでも申し上げたことではありますが、私たち生活者ネットワークとしては、ワクチン接種が絶対にダメであるとか、打つなと申し上げている訳ではなく、接種することでリスクが回避できる方、接種する必要がある方、接種することで安心できる方などもいらっしゃることを認識しています。しかし一方で、日本の未来を支える子どもや若者たちに接種するワクチンの安全性に対しては、他の年代よりもさらに慎重な態度がとられるべきであり、リスクとベネフィット（利益や効果）について慎重に比較したうえで、明確に利益が上回ることが重要であると考えています。

先に示したように、新型コロナウイルス感染症が比較的重症化しにくく、一方でワクチン接種の副反応が比較的出やすいことが明らかになってきている子どもや若い人たちに対しては、いまだわからないことも多く、コロナウイルスやコロナワクチンに対してさまざまな情報が日ごとに更新されているなかにおいてとはとくに慎重に対応すべきであり、とくに自らの意思でワクチン接種に関する幅広い情報を集め判断することが難しい未成年者に関しては、少なくとも治験が終了し副反応への対応を含めた情報が蓄積されることを待つべきと考えます。

例えばファイザー製ワクチンの添付文書には「本剤は、本邦で特例承認されたものであり、承認時において長期安定性等に係る情報は限られているため、製造販売後も引き続き情報を収集している」と書かれているとおり、いまだ長期的な影響については誰にも分らないのが現状です。

新型コロナウイルスのワクチンの効果はあくまでも発症予防や重症予防であり、実証が難しいことから

感染防止の効果があるとはいえないということは厚生労働省の資料にも以前から明記されています。抗体についても現在は長くても6か月程度と言われており、集団免疫を獲得するのは難しいともいわれています。3回目の接種が進んでいるイスラエルや、新型コロナウイルスワクチンの接種を必要回数終えた人が8割を超えるシンガポールでも、現在感染が急速に再拡大しています。これはワクチン接種が感染拡大を防ぐものではないことを示していると思います。こうした状況にも関わらず、公衆衛生のために、あるいは感染を防ぐため、誰かにうつさないために、という名目で、重症化しにくい子どもや若い人たちにワクチン接種を推し進めるとするのは、全く納得いくものではありません。

10月以降緊急事態宣言が全解除となり、アストラゼネカのワクチン開発にも関わったイギリスの研究者が、新型コロナウイルスについて、今後、弱毒化し最終的には風邪の原因の一つになるとの見通しを示したとの報道もあったように、私たちは今後の生活のなかで新型コロナウイルスとうまく付き合っていく方法を考える必要がありますが、それはワクチン接種だけが方策ではないはずです。

市においては、新型コロナウイルス感染症を不安に思う方を尊重するのと同様に、ワクチンの副反応についても不安に思う方がいることもきちんと尊重し、「打つ選択」「打たない選択」ともに差別を受けることのないよう、例えばワクチン接種について先生や上司が直接確認することがないようにするなど、学校や職場での周知徹底をはかるよう注意喚起をしていただきたいと思います。

また、市のHPにて9月17日付けで副反応についての情報を新たに載せていただき、厚生労働省の副反応についての情報にもたどりつけるようにしていただき、ありがとうございます。引き続き、新型コロナワクチン接種に関してはきちんとリスクとベネフィットに関する情報を市としてできる限り中立的な情報を提供していただきたいと思いますこと、とくに未成年の接種にあたっては、あくまでも任意接種であるとして積極的な勧奨は行わないことを強く要望し、賛成の討論といたします。